月例会ダイジェスト【84】

国が推し進める働き方改革や、情報通信技術の進化、さらにコロナ禍の影響等により、人々の就労形態は多様化の一途にある。このような働き方の変化に際して、産業保健が目を向けるべき課題はどこにあるのだろうか。

６月の月例会は「雇用・就労形態の多様化と健康」と題して井上まり子氏（帝京大学）を講師に招き、オンラインで開催された。コーディネーターは金森悟氏（帝京大学大学院）と福田洋氏（順天堂大学）が務めた。

井上氏は、冒頭で“No one left behind”というスローガンの下、“全ての労働者”が安心・安全に働く権利の保護をうたったSDGsの目標を紹介したあと、日本における“全ての労働者”の実態について、各統計データをもとに説明。全事業者の中でも大半を占める小規模事業者（従業員数50人未満）を対象にしたアンケートでは、その約半数が地域産業保健センターを利用したことがない（存在を知らない）と回答した結果を挙げ「産業保健の“傘”でしっかり守られている労働者は、実は限定されている」という現状を提示した。

次に、話題を派遣労働者やパート従業員を中心とする従来の「非正規雇用者」に移した。

井上氏は、正規雇用者に比べて非正規雇用者は身体面・精神面で不調になりやすく、労働災害等においても不利な状況に陥りやすいことを国内外の研究成果レビューをもとに説明。また、製造業において派遣労働者への安全衛生教育が十分になされていない可能性を示唆する労働災害の統計データや、受診対象にもかかわらず非正規雇用者の定期健康診断受診率が、正規雇用者より低いことが明らかになった研究報告も例示した。その上で「法律で規定されているにもかかわらず、非正規雇用者に産業保健が十分に行き渡っていない」と企業側の意識のあり方にも疑問を投げかけた。

最後のトピックは「さらに多様な働き方」。デジタル技術の進化で、従来の生産工程に変革をもたらすIndustry4.0（第４次産業革命）と、フィジカル（現実）とサイバー空間の連携により、経済的発展と社会課題の解決を目指すSociety5.0の出現で「今後は働き方がさらに多様化される」と前振りした。

その中でも、事業者など発注者から直接仕事を受注し、個人で労務提供する「雇用類似（雇用と自営の中間）」の人々に井上氏は着目。デリバリーサービスの配達員やクラウドワーカーなど、プラットフォームを介して個人の資産やスキルを活用した経済活動（シェアリングエコノミー）に従事する労働者は「どのような労働環境で働いているのか、全くのグレー」と、産業保健の目が届いていないことを指摘した。さらに、企業で徐々に浸透している兼業・副業についても「法改正はされているものの、当人が本業と副業を合わせて何時間働いたかを正確に把握することは難しい」といった問題点を挙げた。発表の総括として「働き方だけが自由になっていて、労働者の健康を守る視点が置き去りにされている。社会で新しい働き方が推奨される中で、いかに労働者の健康を守ればいいのか。その問題について、きちんと考えなくてはいけない」と主張した。

後半はグループに分かれ「自社等で、産業保健サービスがあまり届けられていないケース（対象者）」「非正規雇用者等への好事例・工夫点」について話し合った。

その後の発表では「さまざまな身分の人が同じフロアで働いているが、表にはその違いが見えづらい。人によって届けられる産業保健のサービスも当然違うと感じている」という声や「産業保健側に、非正規労働者の課題（困りごと）が上がってこないので、現状が見えづらい」といったコメントから、課題があること自体は想像できるが、それが可視化されていない事情がうかがえた。

一方で「雇用形態に限らず利用できるキャリアアドバイザーのような窓口があり、職場にいる人であれば何でも相談できる。必ずしも、健康管理室など産業保健に特化した窓口でなくてもいいのではないか」という事例や「職場巡視の際には、正規・非正規問わず保健師が相談を積極的に受けており、その時間も勤務時間として扱っている」「フルタイムでなくても、正規雇用にして産業保健の対象にしている」というケースも紹介された。また「“労働者の健康を守る”という企業の倫理が問われているのではないか」と指摘する声もあった。

これらの議論を踏まえ、井上氏は「社会の見えない部分で、健康が守られていない労働者が存在する。産業保健職の方々も、日頃対応されている労働者の経済背景や社会背景に興味を持ち、気づいたことをさんぽ会のような場で共有していただけると、研究者にも実情がよりはっきり見えてくる。どうすれば今後の社会を改善できるのか、皆さんと一緒に考えていきたい」と訴えた。

産業保健の“傘”からはみ出る労働者の実態は、傘の内側からは見えにくい。今回の月例会では、その見えない部分が広がっていく可能性に警鐘が鳴らされた。最後に福田氏が「さんぽ会の参加者の多くは、比較的産業保健が機能している恵まれた環境に身を置いていると思うが、だからこそ社会で働く人たちに何が起こっているのか注視する必要がある。常にアンテナを張り、情報をアップデートしていかなくてはいけない」と呼びかけ、月例会を締めくくった。

さんぽ会の詳細は下記サイトをご覧ください。
- ホームページ　http://sanpokai.umin.jp
- ＦＢページ　http://www.facebook.com/sanpokai